

(3) 指導過程

過程	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	備考
導入	1. 波の音を聞く。 2. 本時の学習内容と目標を確認する。 ・「浜辺の歌」の音取りを通して、 日本の歌曲に親しもう。	○ 本時に扱う教材との関わりを知らせ、曲に対するイメージをふくらませる手だてをとる。 ○ 本時の学習内容と目標を確認することによって、生徒が見通しを持って学習に取り組めるようにする。 ○ 全体の目標に対しての個人の目標を立てさせる。 ○ 姿勢や口の開け方などに注意させる。	波（効果音）のCD 自己評価カード
展開	3. 自己評価カードに記入する。 4. 発声練習をする。 ・プレス ・音階練習 (Hum.A) 5. 「浜辺の歌」の歌唱練習をする。 6. 曲の構成を知る。 7. 昔の言葉の意味を知る。 8. 8分の6拍子にはどのような特徴があるか考え、気付いたことを発表する。 9. 2つの伴奏を比較し、もとの伴奏が曲とどのような関わりを持つのかを考える。 10. 曲の特徴を十分生かし、情景を思い浮かべながら歌う。	○ 曲の構成（二部形式、AA'BA'）であることに気付かせ、音とりを効率的に進める。 ○ 「あした」「もとあれば」「星のかげ」といった言葉の意味を理解させる。 ○ 8分の6拍子と4分の4拍子で歌ってみせて、拍子の違いで曲想がどう変わるか感じたことを発表させ、8分の6の拍子感と曲想の関わりを感じ取らせる。 ○ 2種類の伴奏（ワルツバスとアルペジオ）で歌わせ、どちらが曲にふさわしいか考えさせる。	教科書 詩の色画用紙 浜辺の写真
終末	11. 自己評価カードに記入する。 12. 本時のまとめをする。	○ 自己評価を記入させ、本時の目標が達成できたか確認する。 ○ 日本人が大切にしてきた自然や人の心への思いなど情緒を忘れずに生きていくことの重要性を伝える。	

7 板書計画

目標

「浜辺の歌」を通して、
日本の歌曲に親しもう。

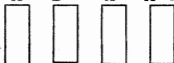
6 / 8

4 / 4

浜辺の写真

「浜辺の歌」の歌詞

A' B A' A=二部形式



言葉の意味

あした＝朝

もとあれば＝さまよえば

しのぼるる＝思いをはせてしまう

かげ＝ひかり



1 題材 日本の歌(心の歌)

2 目標

- (1) 日本の曲の特徴に関心を持ち、情景や感情を生かしながら意欲的に歌うことができる。
(観点1: 音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 曲の音楽の要素を理解し、それらが生み出す雰囲気を生かした表現の工夫ができる。
(観点2: 音楽的な感受や表現の工夫)
- (3) 歌詞の内容や拍子の特徴を理解し、曲にふさわしい歌唱表現の技能を身に付けることができる。
(観点3: 表現の技能)

3 教材 「浜辺の歌」 林 芙美子作詞/成田為三作曲

4 指導観

- 現在の生徒が親しみを持って聴いている曲は、自分をとりまく身近な状況(恋愛感情、社会情勢など)を題材とした、ポップス系の曲が多い。その中にあって、古く昔から日本の美しい風土を美しく描いた曲に触れることは、広く日本人が失いつつある日本人ならではの情緒を取り戻す重要な機会だと考える。そこで、本題材「日本の歌(心の歌)」では、古くから親しまれてきた美しい歌を、曲の音楽的要素を理解し、さらには歌詞の情景をイメージしながら歌うことで、日本の歌のよさを豊かに感じ取り、現代にも歌い継がれていくことにつなげていきたい。
- 本学級は、男子20名、女子19名という大編成でもあり、歌声に厚みが十分ある。しかし、発声には未熟さが見られ、日々の基礎練習に力を注いでいるところである。前時まで、「心の中にきらめいて」という混声3部合唱に取り組んできた。実技発表会では緊張する中、歌詞の表す心情をうまく表情をつけて歌唱できる生徒もいれば、言葉の抑揚を生かした表現が不十分な生徒もいた。また、音楽的要素に対しての理解についても個人差があり、音楽活動の基礎的な能力を伸ばすための手だてを引き続き工夫していく必要がある。
- 本題材で扱う教材「浜辺の歌」は、作詞者の描いた「寄る波」「かえす波」の様子が8分の6拍子の特徴と関わって的確に表現されているため、拍子感と曲想の関係を感じ取ることができる名曲である。また、単純明確な二部形式(AA'BA')で構成されているため、曲の構成を理解することにも適している。さらには、各フレーズに強弱が細かく設定されており、それらをしっかり表現することで、基礎的な表現技能を身に付けることができる曲である。これらの特徴を十分に生かして目標にせまっていきたい。

5 指導計画

日本の歌(心の歌)	全3時間
(1) 曲の構成、拍子の特徴、伴奏の特徴	1時間(本時)
(2) 旋律の確認、歌詞解釈、強弱の表現	1時間
(3) 表現の工夫、実技発表会	1時間

6 本時の学習指導

(1) 目標

- 浜辺の歌に親しみ、日本の曲のよさに気付くことができる。

(2) 資料及び準備

- 教科書、ファイル、CD、再生機器 詩の色画用紙、浜辺の写真